

第3回大阪府市都市魅力戦略会議

1 開催日時

平成24年6月13日(火) 10:00～11:30

2 場所

大阪市役所本庁舎 7階 第6委員会室

3 出席者

橋爪特別顧問、池末特別参与、太下特別参与、嘉名特別参与、橋本特別参与、山口特別参与、
福田大阪府府民文化部長、堤大阪市ゆとりとみどり振興局理事
大阪商工会議所 児玉理事・総務広報部長、関西経済連合会 櫻内理事、
関西経済同友会 松尾事務局次長兼企画調査部長

4 議事概要

○都市魅力戦略会議報告案について

【事務局より概要説明】

(嘉名特別参与)

- ① 基本は現在あるものを最大限活用しようということ。これまでまちづくりや文化・観光などそれぞれの観点からのみ考えていたことを、都市魅力の観点から考えようということこれまで検討を進めてきた。2015年を目標としているが、今年から何ができるのかが大事。盛りだくさんの内容だが、2015年に向かって一定の成果をあげることは十分に可能であると考えている。打ち上げ花火ではない。

(池末特別参与)

- ① 本来は府市それぞれに戦略があり、それを一つに融合していこうとする話だが、都市魅力については市にはなかったため、府の戦略をベースに進めていく。
- ② それぞれ具体的に話を進めていくにあたり、財源などの問題から優先度を付けないといけないことも出てくるかと思うが、基本的には今回の方針にやりたいことを全て含んでいる。

(太下特別参与)

- ① 都市魅力において文化は極めて大きな役割を果たしている。グレートリセットは大きなチャンスである。特に今回提案しているアーツカウンスルは、政策と事業が連動し、行政と評価者の役割分担がきちりできており非常に特徴ある内容となっている。
- ② ミュージアムアイランド構想における新たな美術館については、従来型ではない新しいミュージアム像をめざしたい。世界の国がこの美術館の分館を作りたいといってくれるような美術館としたい。

(橋本特別参与)

- ① おもしろいものを作ろうというのが共通の概念である。
- ② 私は3月まで岩手県にいたがご存知の通り震災で大変なダメージを受けた。大阪もあのように極端な被害を経験したわけではないが、緩慢にダメージを受けているといえる。そうした中で大阪を魅力的な場所にしていく方策を提示した。

(山口特別参与)

- ① 社会心理学を専門にする研究者で浄土宗の僧侶と、この分野に関係がないように見えるかもしれないが、人間関係の豊かさをどう生み出すかという点で一定の貢献ができたと認識している。
- ② その立場から今回最も重要視したのは世代継承性。過去から未来への時間軸をつなげ、現在の営みを打上げ花火に終わらせないということ。この時代に生きている人の住みごたえの実感を駆り立て、大阪で良かったと思えるための仕掛けと仕組みを提示した。
- ③ 橋本参与も言われている“おもしろい”というのは、単に“楽しい”という fun だけでなく、“趣が深い” interesting、という観点こそ重要。その場限りではなく、後で「なるほど」と味わい深く感じてもらえることが大事。
- ④ 製造業の品質管理などに用いられる P D C A の発想が文化や都市魅力になじむのか疑問を抱く方もいるだろう。ただ、大阪アーツカウンシル（仮称）の案では行政からの外部性よりは独立性を保つ統治機構を新たに設置する提案であり、しかも評価部会から始めることとした点に特徴がある。要するに P D C A の C から始めるということで、既存の組織や事業を適切に評価し、新たな事業を構想することに力点を置いたという点で、他地域に例を見ない枠組みとして非常に趣が深いものを提示できた。

(橋爪特別顧問)

- ① 今回、従来とは違う大きなコンセプト（大方針）を示したいという思いから、当初からの「グレートリセット」という言葉をキーコンセプトとして使用してきた。
- ② 市にはなかった都市魅力の戦略について、既存の府の戦略をベースに、都市魅力戦略会議での議論内容を踏まえて、これから府市の戦略を作っていくということ。
- ③ スケジュールとしては新戦略が出来上がるのが 12 月となっているが、それまでの半年間が空白期間とならないように、あるべき大阪の姿をめざしてスピード感を持って、戦略策定と並行して動いて行けるところは動かしていただきたい。
- ④ 重点エリアについては 5 か所を挙げているが、今後順次拡大していく。
- ⑤ 一過性のイベントとして 2015 年に何かをするというだけでなく、2015 年をめざして都市魅力の基盤を作っていくとういこと。内容には 2015 年以降に始まることもあり、骨太の大方針として打ち出していきたい。

(大商 児玉理事)

- ① これまで大商から申し入れしていた意見を取り入れていただいていることに感謝する。
- ② 本町橋の整備においても、民間がビジネスをしやすいような制度設計が必要と考えており、計画初期の段階から参加させていただきたい。
- ③ 大阪城の観光拠点化について、複合集客施設の整備が NHK 跡地に限定されているが、特別史跡内でも是非検討してほしい。また PMO については単なる公園管理ではなく、公園経営をする組織であってほしいと考えており、そのためにも天守閣も含めての一体化を検討していただきたい。
- ④ 4 月 20 日に開催された「大阪府・大阪市・経済 3 団体首脳による意見交換会」で佐藤会頭から申し上げた道頓堀周辺の空き地については民間投資も始まっており、地元商店街から 1 階を提供するので観光案内所の設置や公衆トイレの増設を求める声があがっているの

で行政からの支援をお願いしたい。

- ① B I Dについては、受益者負担のまちづくりとして非常に面白い制度だと感じている。制度設計にあたっては民間企業が参加しやすいメリット、インセンティブを作っていきたいと考えているので共に議論をさせていただきたい。負担金だけでなく例えば水辺の空間の広告利用による新たな財源とするような手法も検討したい。
- ② 大阪観光局の設立に関しては、経済界も協力してまいりたいが、これまで築いてきた人材やネットワークを活用するためにも大阪観光コンベンション協会の活用も検討していただきたい。

(関経連 櫻内理事)

- ① グランドデザインとの関係については、それぞれの役割分担を明確にして重なるところは一体的に推進していただきたい。
- ② B I Dの導入については関経連としてもK-B I D (関西版B I D) を提案させていただいており、今後我々も参画して議論させていただきたい。
- ③ 2015 年に向かってピッチをあげていかないといけないが、既存の組織についても一定の整理をしていく必要がある。

(同友会 松尾事務局次長)

- ① 同友会としてはうめきた及び御堂筋に重点を置いている。うめきたについてはグランドデザイン会議で検討していただいているが、御堂筋に関しては歩行者空間の充実、とりわけ緩速車線の空間再編については是非ともお願いしたい。
- ② 5 ページのアーツカウンシルのイメージ図の流れのところに順番が分かるように番号を付けていただきたい。

(福田部長)

- ① 短期間でここまで取りまとめていただき感謝する。今後現実の制度への落とし込み、議会での議論、事業の予算化などの課題があるが、夢を実現できるよう府市一体となって頑張っていきたい。
- ② 橋爪特別顧問がおっしゃるとおり、新たな戦略ができるまで待つのではなく、「夢」を実現するために大阪市と一緒にできる限り前倒しで取り組んでいけるようにしたい。

(堤理事)

- ① 大商から提案のあった特別史跡内での施設整備については文化庁のハードルが高く非常に厳しいが、歴史的にもとあった施設の復元は可能で、その建物の使い方の中身については比較的自由度が高いようである。その辺りで議論を進めていければと考えている。
- ② 道頓堀周辺について、観光案内所として1階部分を提供していただけるのは非常にありがたい。公衆トイレの増設も含めて、実務的に詰めていきたい。
- ③ 既存組織の整理についても経済界と一緒に組織体制の見直しなど進めていきたい。

(池末特別参与)

- ① 都市魅力の創造や向上を図るためには、他にはない、横並びではない“とんがったもの”を作っていないと行けないが、行政は公平性や継続性を重視し、横並びの観点から他がやっていることをやりがちである。市民にどう理解してもらおうかという観点もある。今回の報告書はとんがったものを行政が作ることへの挑戦のスタートであると認識している。

これらプロセスを市民に理解してもらうことが重要。

(嘉名特別参与)

- ① 今回の報告は盛りだくさんであるが、例えばB I Dのように海外では一定事例があるなど裏付けのある考えもある。目標は2015年に設定しているが、今年度あるいは次年度予算などにおいて動かせるものについては動かしてほしい。例えば水都フェスはまた秋にある。中之島周辺、本町橋界限は大阪の顔になれるポテンシャルを持つ場所である。
- ② アーツカウンシルや観光局の設立については、府市がこれまでも連携してきたところであり、これらが府市統合を先導する取組になっていくだろう。スタートダッシュが大切である。

(橋本特別参与)

- ① 今回の報告書は、一過性のイベントの提案ではなく、“おもしろい”ものが出てきやすい環境づくりだと考えてほしい。これまでのような審議会からのいわゆる「提言」ではなく、具体的な制度設計と思っている。

(太下特別参与)

- ① 3つの重点取組で挙がっている3つの組織がキーを握っており、またアーツカウンシルにおける統括責任者や観光局における経営責任者などそれぞれの組織の責任者がキーとなるので、最適な方を選んでいただきたい。トップに誰を選ぶのか、どのような基準で選ぶのが重要。

(山口特別参与)

- ① 中川特別参与は本日欠席されているが、非常によいチームで検討を重ねることができた。
- ② 今回の報告書では基礎自治体との関係が薄くなっているが、別に議論されている大都市制度の確立のために1、2歩先を見て検討してきたためだろう。案の実現には関経連の櫻内理事の仰るとおりピッチを上げていかないといけない。しかし、リズムも大事。ピッチを上げ過ぎて足がもつれないよう、広域で勝手なことをやっていると思われぬような連帯感が抱かれるような工夫が今後は必要になる。
- ③ 先ほど福田部長が「夢」を実現させるためと言われていたが、今回の報告書は大阪のあるべき姿を求めたものであり、「夢」ではなく「ミッション」であると思っている。このミッションを実現可能とするため、ミッションインポッシブルとならないように特に事務局の皆さんに頑張ってもらいたい。
- ④ 「強い大阪」をめざすとあるが、この強いはstrongという意味だけでなく、resilience(弾力性・回復力)、柔軟性・しなやかさを兼ねそろえた意味と理解している。弱さ、はかなさにも目が向いて欲しい。

(福田部長)

- ① 「強い大阪」をめざすというのはそもそも府の言葉であり、住民に近い基礎自治体は「やさしい」ことをめざし、それに対し広域自治体は世界に打って出るという意味で「強い」というイメージで打ち出している。
- ② 我々も絵に描いた「夢」ではなく「ミッション」と考えているが、今後議会での議論や予算要求、既存組織との調整など厳しい道のりではあることは確かであるので、そこはご理解いただきたい。

(山口特別参与)

- ① 「強い大阪」という言葉を変更してほしいわけではなく、言葉で表し切れていない行間を読んでほしいという希望である。

(橋爪特別顧問)

- ① 従前から申し上げているが 21 世紀は都市の時代である。「強い大阪」を実現するためには、他の都市と同じことをしていても仕方がない。こういう分野を伸ばし、従来なかった都市を作り、世界中の人が大阪に来るような取組をしていきたい。行政においても従来の管理だけの発想に経営・マネジメントという発想を取り入れていただきたい。
- ② 現在は検討できていないが、今後は産業政策との連携を検討していく必要がある。文化創造に関する産業などが続々と大阪で生まれる状況にしていきたい。グランドデザインはハードの車輪、都市魅力はソフトの車輪、もう一つの車輪が産業政策である。経済界におかれても、この分野を基幹産業に行こうという迫力を持って取り組んでいただきたい。

(山口特別参与)

- ① グレートリセットという言葉はリチャード・フロリダ等が用いている学術用語であり、行政用語でさえない。理論的な観点では、リセッティングポイントに立っているとき、クリエイティブクラスの方たちが価値を調整し創造していくという視点。そのため、単にリセットすればよいのではなく、まちの担い手たちのあいだに立つ人の役割が重要。事務局には是非、弱さにも向き合う「強い事務局」になっていただきたい。

(嘉名特別参与)

- ① 官（行政）から民間へということが大きな流れ。そのために枠組を作りかえるという話。
- ② 今後予算の話になってくると思うが、従来型の予算の使い方ではなく、活きたお金の使い方をしていただきたい。

(橋爪特別顧問)

- ① この報告書案を基に本日いただいたご意見を反映して 19 日に府市統合本部会議に私から報告させていただく。特別参与の皆様におかれても都合が付くのであればご出席をお願いしたい。

(事務局)

- ① 本日いただいた意見を反映し修正を加えさせていただく。資料の修正については座長である橋爪特別顧問に一任ということでお願いしたい。